

# 活動の活性化と充実

## PROFILE

〈監修〉

**影浦 攻**

かげうら おさむ

(鹿児島純心女子大学副学長・教授／宮崎大学名誉教授)

広島大学卒業。教諭(鹿児島中央高校、広島大学附属中・高校、鶴丸高校)の後、鹿児島県教育庁指導主事、文部省(当時)教科調査官、宮崎大学教授(その間、附属中学校長、附属小学校長を歴任)、鹿児島純心女子大学国際人間学部長を経て現職。

『小学生のえいご Book1～3』(啓林館)、『新しい時代の小学校英語指導の原則』(明治図書)、『改訂英語科新授業の実践モデル20』(明治図書)、『小学校教師の基本教室英語96選』(明治図書)、他多数。

〈連載第4回執筆〉

**矢野 智子**

やの さとこ

(京都市立朱雀第二小学校教頭)

京都教育大学大学院英語教育学専修修了。京都市立小学校4校で勤務の後、京都市総合教育センター指導主事、同研究課主任研究員を経て現職。

## ① はじめに

2020年、小学校5年生から英語が教科化され、3年生から外国語活動が始まります。早くも2018年度から先行実施が始まる今こそ、現場は、英語教育改革に向けた準備に着手せねばなりません。中でも最優先すべきは外国語活動の授業の充実です。ここでは、外国語活動のねらいをふまえた授業づくりや、授業以外の日常の取組の工夫について紹介します。また、短時間学習の取組を先進的な研究校の実践から紹介します。

## ② 日常的な英語インプットの工夫

本校では、学校生活の中で英語に触れる機会をつくり、日常的なインプットを実践する取組「イングリッシュ・シャワー」に取り組んでいます。これは京都市の外国語教育の充実を図る事業の一つで、授業以外で英語に触れる機会がほとんどない子どもたちが、週1回の外国語活動の時間だけでなく、学校生活の中ででき

るだけ多くの英語に触れられるようにすることをねらいます。

その取組の一つが、英語に触れる校内環境づくりです。子どもがいつも通る廊下や階段を使って、英語に触れるコーナーを常設しています。教員から「音の出る掲示を作ったら面白いのではないか」というアイデアからできあがったのがこちらです。

ボタンを押して耳を近づけると、掲示してある絵カードと対応する音声を聞くことができます。ALTが録音した挨拶を聞けるようにしたり、音声を聞いて答えを絵カードから探すクイズを作ったりなど、子どもたちが目だけでなく、手や耳を使って英語に触れることができるよう、工夫しています。



校内環境づくりには委員会活動の子どもたちも一役買っています。給食後の歯磨きの時間に流れる“Brush, Brush, Brush”という英語の歌に合わせて、子どもが振り付けをしたミュージックビデオは全校に紹介されました。子どもたちは歯磨きをしながら毎日曲を聞いているので馴染みの一曲となっています。



### ③ マンネリ化を乗り越える工夫

授業では耳で英語を聞いて、声に出し何度も言いながら表現に慣れ親しみ、さらにはそれらの表現を使ってコミュニケーション活動や発表をしたりして単元のゴールに向かいます。コミュニケーション活動は主に学級内で行っていますが、伝え合う相手が常に同じであると、次第にマンネリ化に陥ってしまう傾向が見られました。そこで、

- ① 相手を変えてコミュニケーション活動をする
- ② 既習の英語を使う発展的な場を設定することで、授業の活性化を図ることにしました。

#### 【① 学校のゲストに学校案内をする】

本校では、海外からの視察や訪問の際に、6年生の子どもたちが、ゲストに英語で学校案内をします。「Lesson 4 学校案内をしよう」の単元で学習した英語を使って、1グループに1人のゲストを迎えて学校中を案内します。授業ではALTや友達に学校案内をしたり、テキスト上でコマを動かしながら案内をしたりする活

動が一般的ですが、今回は全く学校のことを知らない初対面のゲストに、しかも英語を使って、自分の学校を紹介しなければなりませんので、子どもたちの負担は相当なものです。既習表現を復習し、本番と同じようにグループで歩きながらリハーサルをしました。

そうして迎えた当日、子どもたちの声がリハーサルの時よりも大きく、ゆっくり響いていました。Go straight. Turn left. This is the Principal's room. など、繰り返し慣れ親しんだ表現に加え、本番では臨機応変な対応が求められます。何とか伝えようと必死に単語を繰り返している子、ゲストが違った方向に歩き出したら、No, No. とジェスチャーをしながら修正しようとする子も見られました。子どもたちは、誰に言われるでもなく、自然に相手意識をもって活動をしていました。



#### 【② 英語ゲームコーナーを運営する】

6年生は、夏休みにPTA主催の「こどもまつり」の1ブースで“The Can Stacking Game”コーナーを運営しました。1分間にどれだけ缶を積めるかを競うゲームを、教職員・保護者、留学生ボランティアがサポートします。事前学習では、「得点ランキングを掲示したらどうかな」「英語でカウントダウンをして盛り上げよう」「ハード、ノーマル、イージーコースを作ってはどうか」など参加者に楽しんでもらえるようなアイデアを出し合い、表現を考え、練習やリハーサルを重ねました。本番では、参加者の受付・誘導から、時間の計測や結果発表に至るまで全て英語で行います。

How many cans? One, two, three, ... Oh, eleven!

Bonus point. Please draw a card. Yellow!!

You can get two more points. Thirteen.

Good job!

ここでのコミュニケーションの相手は、普段からよく知っている下級生です。しかし5年生以外は英語に不馴れです。6年生は、英語をよく知らない下級生を気遣って、ゆっくり話しかけたり、やさしく声かけしたりするなど相手意識をもって活動を進め、普段の縦割り活動で見せるのと同じ、6年生らしいリーダーシップを発揮していました。

このように、子どもが相手に伝えようと必死になるような場面をあえて作り、挑戦させるようにしました。相手に自分の英語が伝わった経験は自信につながります。その一方で、相手にうまく伝えられず、悔しい思いも経験しました。もしもっと英語が話せたら、もっと相手といろいろなことを話したかった、聞きたかった、という思いも感じたことでしょう。それが今後の英語学習のモチベーションに繋がってほしいと考えます。



#### ④ 絵本の活用

「聞いてわかる」体験をさせやすい絵本の読み聞かせは、理解可能なインプットを与える活動として、とても有効です。英語を完璧に理解できない子どもも、挿絵が伴うことで、場面や登場人物の動きを類推し、それが内容理解につながると考えます。読み聞かせに適し

た絵本選びのポイントを以下に示します。

- ① リズムがあり、ライムや日常使われる易しい単語が入っている。
- ② 文とイラストが合っている。
- ③ 表紙やタイトルから内容が予想できる。
- ④ 同パターンの表現が繰り返し出てくる。
- ⑤ 起承転結がある。
- ⑥ 文字やスペースが視覚的にはっきりしている。
- ⑦ 子どもの生活体験に近い。
- ⑧ 子どもの読む力に近い。 (リーパ、2011)

次に、1冊の絵本をどう読むか、3つのステップを示します。読み聞かせをするだけでも十分にインプットになりますが、段階を踏んで活動を工夫することで、子どもは更に英語のリズムやストーリーの面白さを堪能することができでしょう。

##### ① Pre-storytelling・・・興味付け

読み聞かせ前に、理解を支える知識を入れたり、ストーリーを予想させたりして興味付けをします。

##### ② Story-telling・・・興味と理解

最後まで一通り読むか、時々子どもに質問を投げかけて読むかは読み手次第です。初回は、子どもがストーリーを理解できるよう、途中で質問や説明をはさみ過ぎないように注意する必要があります。

##### ③ Post-storytelling・・・子どもの興味を深める

読み聞かせ後、内容に関わる活動を行います。例えば、お話に出てくる国と日本の文化を比べたり、語彙を使って活動をしたりして、絵本の世界に親しめるようにします。

本校では、月2回、地域の読み聞かせボランティアによる読み聞かせの時間があります。ALT来校日に合わせて英語絵本の読み聞かせを入れ、教員とのチーム・ティーチングで担当します。ALTは読み聞かせを通して、英語をたっぴりと子どもたちに聞かせることができます。TTの教員は、子どもを惹きつけるような質問を投げかけたり、様子を見て日本語で補足をしたり、聞

いた後に感想を伝え合う場を設けたりと絵本の世界を楽しみ、広げる工夫をしています。



## 5 短時間学習の充実

全校で短時間学習に取り組む京都市立第四錦林小学校の実践を紹介します。

表にあるように、昼の帯時間(10分間)を設定し、担任が指導をしています。主に英語に慣れ親しむことをねらって以下の2つの活動をしています。

|                | 月  | 火  | 水                   | 木                | 金             |
|----------------|--|----|---------------------|------------------|---------------|
| 8:30<br>8:40   | 全校読書   | 国語 | 全校読書                | 全校読書<br>全校読書     | 国語            |
| 朝の会(10分間)      |  |    |                     |                  |               |
| 8:50<br>9:35   | 1  | 1  | 1                   | 1                | 1             |
| 5分休み           |  |    |                     |                  |               |
| 9:40<br>10:25  | 2  | 2  | 2                   | 2                | 2             |
| 中間休み(20分間)     |  |    |                     |                  |               |
| 10:45<br>11:30 | 3  | 3  | 3                   | 3                | 3             |
| 5分休み           |  |    |                     |                  |               |
| 11:35<br>12:20 | 4  | 4  | 4                   | 4                | 4             |
| 給食指導(45分間)     |  |    |                     |                  |               |
| 昼休み(20分間)      |  |    |                     |                  |               |
| 13:05<br>13:35 | 清掃(10分間)   |    |                     |                  |               |
| 5分休み           |  |    |                     |                  |               |
| 13:40<br>13:50 | 外国語活動<br>英語活動                                    | 国語 | 外国語活動<br>英語活動       | 国語               | 外国語活動<br>英語活動 |
| 13:50<br>14:35 | 5  | 5  | 5                   | 5                | 5             |
| 5分休み           |  |    |                     |                  |               |
| 14:40          | 終わりの会<br>14:45~15:30<br>クラブ(4年生以上)<br>委員会(5・6年生) |    | 6<br>3年生<br>スラダータイム | 4年生以上<br>スラダータイム | 6             |
| 15:25<br>15:30 | 終わりの会(5分間)                                       |    |                     |                  |               |

### ① 授業をつなぐ活動

単元の学習に使う教材や短時間学習指導資料を使って、子どもが段階を踏んで表現に慣れ親しむことができるように、回数を決めて、単元中に組み込んでいます。

### ② 英語への興味・関心を高める活動

単元と単元をつなぎ、既習表現や、次単元につなが

る表現に触れ、英語への興味・関心を高めます。歌や絵本、手作りの映像等を組み合わせ、短時間学習専用の教材を使って指導しています。初めて短時間学習の指導をする先生もいるので、年度当初、必ず校内研修をして指導法について理解を深められるようにしています。

## 6 子どもや教師の成長

一般的な小学校では、英語の研修や準備にかかる時間が十分にあるとは言えません。そこで本校では、限られた時間の中であっても、目指したい子どもの姿を共有し、今ある取組に少し手を加えることで取組を活性化させることを目指しました。また、教員だけの取組に終始させないで、地域人材やALTと連携を図り、無理なく組織としての取組を継続しています。今、校内の英語部会では、単語掲示の際、4線上に文字を示すことができるようにすることを検討中です。

第四錦林小学校では、全校で短時間学習に取り組んだことで、授業と併せてより系統的な指導ができるようになりました。授業と短時間学習のねらいをふまえ、英語に慣れ親しむ活動内容を精選し、10分間を意識した指導ができるようになったことや、単元で目指したい子どもの姿をイメージし、単元構成をゴールから逆算して考えられるようになったことが指導者側の成果として挙げられます。一方、英語に不安を感じやすい児童には、授業と短時間学習を通して繰り返し表現に慣れ親しむことが効果的な支援になっており、少しずつ自信をもって活動に参加するようになってきています。

### 引用・参考文献

- ・リーパ すみ子(2011)『アメリカの小学校では絵本で英語を教えている』径書房
- ・矢野 智子(2015)「小・中学校における効果的な英語インプットのあり方に関する研究―"KYOTO English Shower" Project Plan の開発と提示―」